

JICE 研究開発助成について



情報・企画部
研究員

浅賀 久美子

1 JICE 研究開発助成の概要

JICE では、平成 11 年度に「JICE 研究開発助成」の制度を創設し、2022 年度までに延べ 307 件の研究に対して助成を行ってきた。研究開発助成制度は、各分野の先進的技術の研究開発を促し、住宅・社会資本整備を通じてより良い国土の利用・整備又は保全に寄与することを目的として、JICE の公益事業として実施している。

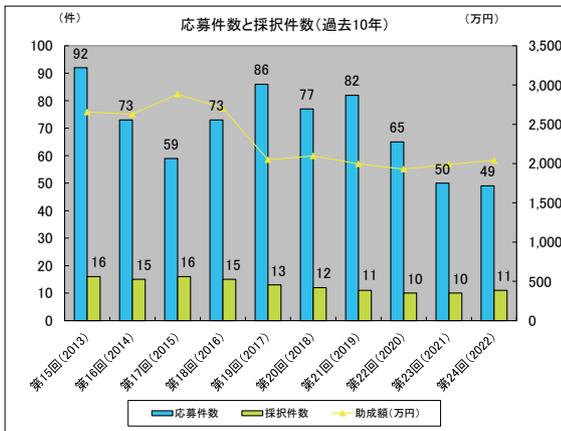


図 1 JICE 研究開発助成 応募件数と採択件数推移

JICE 研究開発助成は、社会資本整備に資する研究であることを前提に、建設分野にとどまらず、人文系、社会科学系及び自然科学系の分野の研究においてもご応募いただくことが可能である。①応用研究課題として 3 課題、②重点研究課題として 7 課題の合計 10 件の研究課題を設定して公募しており、分野横断的な研究開発の応募を期待している。

2 第 24 回研究開発助成

2022 年度の第 24 回研究開発助成については 49 件の応募を受付けた。これらの応募研究に対して、研究開発助成審査委

員会における厳正な審査により、優れた研究開発 11 件を採択し、2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの期間において研究が進められているところである。

3 第 25 回研究開発助成の募集

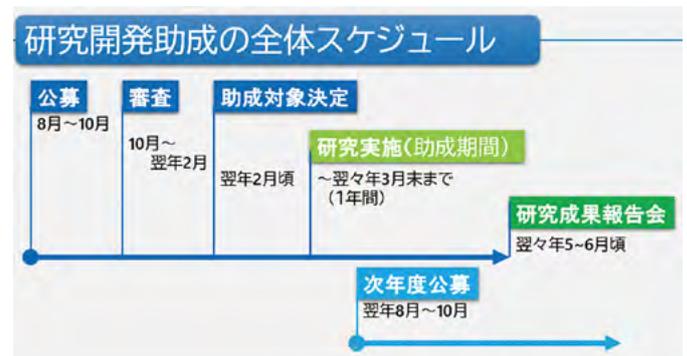


図 2 JICE 研究開発助成 全体スケジュール

2023 年度の第 25 回研究開発助成の公募は、2023 年 8 月頃からの開始を予定している。

助成の対象は、住宅・社会資本整備に係わる先進的な研究・技術開発として応用研究課題と重点研究課題で合計 10 の課題を設定している。重点研究課題については国土交通行政が抱える課題の解決支援につながる研究課題として毎年見直しを行っている。また、助成対象とする研究者は、原則として大学、高等専門学校及びこれらに付属する機関等の研究者または民間企業の研究者（学生は対象から除外）としており、助成額は 1 件につき原則として単年度 200 万円以内、1 つの研究テーマに対する研究開発助成は 2 ヶ年を限度としている。詳細は、公募開始後に JICE ホームページに掲載するので、是非ご覧いただき、積極的に応募をしていただきたい。

4 第23回研究開発助成 成果報告会

本助成を受けて研究を実施した成果については、その先進的な研究による知見をより多くの皆様に役立てていただくため、発表の場として例年、研究開発助成成果報告会を開催している。

2021年度第23回研究開発助成を受けて研究が実施された10件の研究については、2023年6月2日（金）に開催の成果報告会にてご報告をいただいた。本会は新型コロナウイルス感染予防の観点や、参加のしやすさを重視してオンライン配信にて開催したところ、500名を超える聴講者にご参加いただいた。

本会では構造物の長寿命化や維持管理に関する研究、気候変動への適応に向けた研究など、安全で快適に暮らすために我々が直面している課題について幅広くご報告をいただいた。

聴講者からは研究に対する質疑や意見交換が積極的に行われ、各研究への関心が寄せられた。

なお、成果報告会は、土木学会認定の継続教育（CPD）プログラムの認定を受け公開にて実施し、専門技術者の継続的な技術研鑽にも活用していただいている。



図3 成果報告会の報告の様子と事務局運営の様子

これらの研究の成果概要、発表資料についてはJICEホームページの研究開発助成事業で掲載しているので、あわせてご覧いただきたい。

(<https://www.jice.or.jp/review/assistances>)



表 第23回研究開発助成成果報告（2021年度採択研究）研究課題一覧（発表順：敬称略）

発表順	研究課題名	研究者名
1	賑わいが街を変える - AIシミュレーションによる都市動態100年予測 - に関する研究	筑波大学 教授 倉橋 節也
2	都市経営の視点からみたコンパクトシティ政策による長期的便益の貨幣価値評価に関する研究	富山大学 特別研究教授 中川 大
3	GNSS衛星測位システムに基づく長大橋の変位計測モニタリングとAIを活用した変形予測に関する研究	山口大学 准教授 渡邊 学歩
4	近未来交通システム導入時の道路空間再配分に関する数理モデル研究	東京大学大学院 教授 福田 大輔
5	生活道路の路面舗装に関する研究	日本女子学 教授 薬袋 奈美子
6	道路利用条件の変化や長寿命化技術の導入が舗装寿命に与える影響の定量的評価に関する研究	大阪大学大学院 准教授 貝戸 清之
7	骨材-セメントペースト間の界面破壊と圧電効果の相関に関する研究	立命館大学 准教授 福山 智子
8	実測データを考慮した山地と河川・沿岸域の広域土砂動態・地形変化モデルの構築に関する研究	群馬大学 准教授 鶴崎 賢一
9	気候変動への適応に向けた砂浜価値の定量化に関する研究	東北大学大学院 教授 有働 恵子
10	越水した場合であっても「粘り強い河川堤防」の耐浸透性能に関する研究	山口大学 准教授 森 啓年